

中学校 保健体育科

1. 保健体育科における学習評価の基本的な考え方

保健体育科の体育分野においては、「第 1 学年及び第 2 学年」というまとまりになっており、2 年間を見通した指導と評価の計画を作成する必要があります。また、各時間において指導したことを全て評価する必要はありません。単元を通して計画的に評価を行うことが大切です。保健体育科の特徴として、指導したその時間内に評価するのではなく、継続して指導や観察を行い、評価を行うことが考えられます。特に、単元の前半に設定する評価は、単元全体の指導のための評価と捉えて、単元の終了時まで指導と評価を繰り返すことが大切です。

2. 中学校保健体育科の学習評価の事例

中学校保健体育科の「内容のまとまり」は、〔体育分野 第 1 学年及び第 2 学年〕A 体づくり運動、B 器械運動、C 陸上競技、D 水泳、E 球技、F 武道、G ダンス、H 体育理論（1）運動やスポーツの多様性、（2）運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方、〔体育分野 第 3 学年〕A 体づくり運動、B 器械運動、C 陸上競技、D 水泳、E 球技、F 武道、G ダンス、H 体育理論（1）文化としてのスポーツの意義、〔保健分野〕（1）健康な生活と疾病の予防、（2）心身の機能の発達と心の健康、（3）傷害の防止、（4）健康と環境に分けられます。

この内容のまとまりを踏まえた学習評価の事例を、〔保健分野〕第 2 学年「（3）傷害の防止」で説明します。

例 【保健分野】第 2 学年「（3）傷害の防止」



単元目標は、学習指導要領解説を参考に設定することができる。語尾は、「～することができる（ようにする）」と表記する。

（1）単元の目標の設定

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、交通事故などによる傷害の防止、自然災害による傷害の防止、応急手当の意義と実際について、理解することができるようにするとともに、心肺蘇生法などの技能を身に付けることができるようにする。	傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。	傷害の防止について、自他の健康の保持促進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

（2）単元の評価規準の設定

目標の実現に向けた生徒の学習の状況の評価するため、評価規準は、「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を参考に、目標として設定した指導事項の文言を基に設定し、評価規準の語尾は、「～できる」（技能）、「～している」（知識・思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）と表記します。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料の巻末資料に「内容のまとまりごとの評価規準（例）」が示されています。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することについて、伝えたり、書き出したりしている。</p> <p>②交通事故による傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できることについて、伝えたり、書き出したりしている。</p> <p>③自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じることや、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることについて、伝えたり、書き出したりしている。</p> <p>④応急手当を迅速かつ適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができることや、応急手当の方法について、伝えたり、書き出したりしているとともに、包帯法や止血法としての直接圧迫法、心肺蘇生法ができる。</p>	<p>①傷害の防止について、それらに関わる事柄や情報などを整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。</p> <p>②自然災害などによる傷害の防止について、習得した知識を自他の生活に適用したり、傷害の状態に合わせて悪化を防止する方法を見いだしたりして、傷害を引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択している。</p> <p>③傷害の防止について、自他の危険の予測や回避の方法と、それを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。</p>	<p>①傷害の防止について、課題の解決に向けた学習活動に自主的に取り組もうとしている。</p>

保健分野においては、技能の習得がない単元もある。

(3) 単元の指導と評価の計画 (全8時間)

時間	学習活動	重点	記録	「おおむね満足できる状況(B)」と【評価方法】
1 傷害の発生要因	(1) 傷害の防止についての課題に気付く。 (2) 交通事故や自然災害などによる傷害について、課題の解決に向けてグループで話し合う。 (3) グループでの話し合いを基に全体で意見交換をする。 (4) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生は人的要因、環境要因が関わって発生することをワークシートにまとめ、発表する。	態① 知①	○	学習活動(2) 傷害の防止について、課題の解決に向けた学習活動に自主的に取り組もうとしている状況を【観察】で捉える。〈態①〉 学習活動(4) 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することについて、言ったり、書き出したりしている内容を【観察・ワークシート】で捉える。〈知①〉
(第2・3時 省略)				
4 5 自然災害による傷害の防止	(1) 過去の大地震の資料を見て、どのような傷害が発生したかを調べたり、これまでの自分たちの生活を振り返ったりする。 (2) 大地震が起こった時の自分たちの行動を予想する。 (3) 「災害から命を守るために～防災教育教材～企画：文部科学省」を視聴し、二次災害によって傷害が生じることをワークシートにまとめる。	思② 知③	○	学習活動 4-(1)、(2) 自然災害などによる傷害の防止について、取得した知識を自他の生活に適用したり、傷害の状態に合わせて悪化を防止する方法を見いだしたりして、傷害を引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択している内容を【観察・ワークシート】で捉える。〈思②〉 学習活動 4-(3)を第5時授業後に評価 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じることについて、伝えたり、書き出したりしている内容を【観察・ワークシート】で捉える。〈知③〉
	(1) 地震などの自然災害に対して、各家庭で備えていることを出し合い、教科書等のチェックシートで確認する。 (2) 防災に関する映像資料を視聴し、傷害を防止するために必要なことをグループで検討し、発表する。 (3) 本時のまとめをワークシートに記入する。	知③	○	学習活動 5-(3) 自然災害による傷害は、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることについて、伝えたり、書き出したりしている内容を【観察・ワークシート】で捉える。〈知③〉
6 7 8 応急手当の意義と実際	(1) 応急手当の意義や手順について、課題の解決に向けて話し合う。 (2) 応急手当の基本を確認し、患部の保護や固定、止血の行い方を教科書や視覚的教材で確かめる。 (3) 包帯法と直接圧迫法の実習を2人組で行い、知識や技能をワークシートにまとめる。	知④		学習活動 6-(3)を第7時授業後に評価 応急手当を迅速かつ適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができることについて、伝えたり、書き出したりしているとともに、包帯法や止血法としての直接圧迫法ができる状況を【観察・ワークシート】で捉える。〈知④〉
(第7時 省略)				
	(1) 今までの学習内容を確認する。 (2) 傷害のケースを示した場面カードを引き、傷害の発生した場面やけがの状況に適した応急手当の方法と手順や、危険を予測し、回避する方法を考え、グループで話し合う。 (3) 単元を通して学んだことをこれからの生活にどのように生かしていくかをワークシートに記入し、発表する。	思③ 態①	○ ○	(学習活動 2 授業後に評価) 傷害の防止について、自他の危険の予測や回避の方法と、それを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている内容を【観察・ワークシート】で捉える。〈思③〉 (学習活動 2) 傷害の防止について、課題の解決に向けた学習活動に自主的に取り組もうとしている状況を【観察】で捉える。〈態①〉

授業改善につながる評価を重視し、「努力を要する」状況の生徒へ指導を行い、第8時で記録に残す指導を行う際に変容が見とれるようにする。

評価については、1時間で必ず評価を終える必要はなく、授業をまたいで次時に評価を行うことも可能である。

「知識・技能」については、「応急手当の意義と実際」という学習のまとまりを踏まえ、包帯法や直接圧迫法を理解しているか技能は身につけているか、応急手当を行うことの意義は理解できているかをバランスよく評価する。
「十分満足できる」状況にあると判断するポイント
 ・患部の保護や固定、止血や心肺蘇生を行うことによって、傷害の悪化を防止できることについて、理解したことを具体的に挙げて言ったり、書き出したりしている。また、状況に応じた応急手当の技能を身に付けている。

「十分満足できる」状況にあると判断するポイント
 ・応急手当の方法と手順や、危険を予測し、回避する方法について、学習したことをそれぞれの場面にあてはめるときに、改善点や根拠を挙げるなどして、それらを説明している。

主体的に学習に取り組む態度の「十分満足できる」状況にあると判断するポイント
 ・状況に適した応急手当の方法と手順、危険を予測し、回避する方法を考える時に、前時までに学習した概念的な知識と自分たちの生活を結びつけながら、考えようとしている。